

ヴァイオリン 成田達輝

Violin  
Tatsuki  
Narita

© Marco Borggreve

札幌で3歳よりヴァイオリンを始める。2010年ロームミュージックファンデーション奨学生に選ばれる。ロン＝ティボー国際コンクール(2010)エリザベート王妃国際音楽コンクール(2012)、仙台国際音楽コンクール(2013)でそれぞれ第2位受賞。これまでに、ペトル・アルトリヒテル、オーギュスタン・デュメイ、ピエタリ・インキネンなど著名指揮者および国内外のオーケストラと多数共演。現代の作曲家とのコラボレーションも積極的に行っており、特に酒井健治とは関係が深く、ヴァイオリンとピアノのためのCHASMを委嘱したほか、サントリー芸術財団サマーフェスティバルで成田が演奏した酒井健治作曲のヴァイオリン協奏曲“G線上で”は芥川作曲賞を受賞。

2017年11月には一柳慧作曲のヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲を世界初演(チェロ：堤剛)。これまでに、澤田まさ子、市川映子、藤原浜雄、ジャン＝ジャック・カントロフ、スヴェトリン・ルセフ、フローリン・シグティ、田中綾子の各氏に師事。CDに「成田達輝デビュー!サン＝サーンス、フランク、フォーレ、パガニーニ」がある。

使用楽器は、アントニオ・ストラディヴァリ黄金期の“Tartini”1711年製。(宗次コレクションより貸与)。

Tatsuki Narita began his violin studies in Sapporo at the age of three. In 2010, he won 2nd Prize in the Concours International Marguerite-Long-Jacques-Thibaud. In 2012, he won 2nd Prize in the Concours Reine Elisabeth en Belgique, and in 2013 he was awarded 2nd Prize in the Sendai International Music Competition. He has performed with many orchestras and conductors, including Petr Altrichter, Augustin Dumay, and Pietari Inkinen.

He collaborates frequently with contemporary classical composers. He commissioned the work “CHASM for Violin and Piano” from the contemporary classical composer Kenji Sakai; and at the Suntory Foundation for Arts Summer Festival he performed Sakai’s violin concerto “On a G String,” which earned the Akutagawa Award for Composition.

In 2017, Narita gave the world premiere of Toshi Ichianagi’s composition “Double Concerto for Violin and Cello and Orchestra”.

Tatsuki Narita plays the 1711 Stradivarius “Tartini”, on loan from the Munetsugu Collection.

## 3.16 火 第385回 定期演奏会

中村滋延(作曲家、九州大学名誉教授、相愛大学大学院客員教授)

ジャン・シベリウス(1865-1957)

## 交響詩「フィンランディア」作品26

スウェーデン支配下にあったフィンランドは19世紀初頭に東から勢力を伸ばしてきたロシアに服属する。自治権の侵害がひどくなってきた19世紀後半にはフィンランドの愛国独立運動が高まる。そうした運動の一環として行われた民族的歴史劇『歴史的情景』上演のための音楽をシベリウスは作曲した。その音楽から抜粋・編曲した作品が《フィンランディア》である。

曲は低音金管楽器による重々しい序奏ではじまる。主部は速いテンポになり、まず高音金管楽器による闘争を呼びかけるような激しいリズムモチーフ、次に反抗の歩みを象徴するような低音楽器によるモチーフ、その上に勝利を祈るかのような前進的なメロディが現れ展開していく。そして主部は反復される。

中間部は一転して美しいコラール風旋律が現れる。《フィンランディア讃歌》として準国歌としての扱いを受けている有名な旋律である。日本でも讃美歌298番「やすかれ、わがこころよ」として親しまれている。

その後主部が圧縮された形で再現し、盛り上がりの中に《フィンランディア讃歌》の冒頭が高らかに奏でられて感動的に終わる。

このような曲を持っているフィンランド国民が羨ましい。

作曲/1899年 初演/1899年11月4日、ヘルシンキ、作曲家指揮のヘルシンキ・フィルハーモニー 編成/フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、バス・ドラム、シンバル、トライアングル、弦5部  
使用楽譜/ブライトコプフ&ヘルテル

ジャン・シベリウス(1865-1957)

## ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47

シベリウスは後期ロマン派に属するフィンランドの作曲家である。ドイツやフランスなどのヨーロッパ中央の国々以外の後期ロマン派を国民楽派と呼ぶことが多い。国民国家樹立への想いがしばしば音楽に込められているからである。シベリウスの場合、フィンランドの民族叙事詩「カレワラ」を題材にした標題音楽や、絶対音楽においては森や湖などのフィンランドの自然からインスピレーションを得たとされる楽想の出現などにそのことがうかがえる。ただしそうした楽想がどのようなものかを説明するのは難しい。強いて言えば、(1) 保続音(長めの音)が目立つ旋律、(2) 音階上行進行を中心とする落ち着いたテンポの旋律、(3) 五度や四度の跳躍下行が目立つ旋律、(4) 中低音域の金管楽器によるむき出しの和音によるコラーレ、などであろうか。それらはやや風変わりであるが、意外に親しみやすく、哀愁も感じさせる。

シベリウスは多作家である。しかし協奏曲はヴァイオリン協奏曲が1曲のみ。ヴァイオリンはシベリウスにとってなじみ深い楽器であって、音楽の勉強を開始した頃はヴァイオリニストになることが夢だった。しかしヴァイオリンのレッスン開始が年齢的に遅かったためにその夢をあきらめた。代わりに作曲家として円熟を迎える頃にヴァイオリン協奏曲を作曲することでその夢を果たしたことになる。

この協奏曲はヴァイオリンの奏法と効果を熟知し、かつ管弦楽の扱いにも手慣れてきたシベリウスの独創性が十分に発揮されたものである。楽章構成は急—緩—急の伝統的な三楽章制であり、個々の楽章はソナタ形式などの枠組みを保持しているものの、かなり自由である。

第1楽章では哀愁に満ちた第1主題が独奏ヴァイオリンによってやわらかく表情豊かに登場する。ヴァイオリン独奏がこの主題を技巧的に発展させてから他の主題もいくつか登場する。重要なのはヴァイオリン独奏によって提示される音階上行進行による第2主題である。

この主題は発展して弦楽のユニゾンによる力強い歩みを感じさせる第3主題となる。この楽章の特徴は通常では楽章終了前に置かれることが多いカデンツァ(独奏者の技巧をアピールする部分)がほぼ楽章の中間時点にあることである。

第2楽章の冒頭のクラリネット重奏による短い導入主題がきわめて印象的。この導入主題は中間部で弦楽合奏による力強い表情になって、何度か現れる。その時にこの主題に絡む独奏ヴァイオリンは朗々と、時には技巧的に、時にはしっとりと音楽を奏でていく。

第3楽章は土臭さと華やかさの両方を兼ね備えた楽章。冒頭の主要主題、ティンパニと弦楽合奏による伴奏リズムの上で独奏ヴァイオリンはその運動性で聴き手を魅了し続ける。副主題は2拍子(3+3)と3拍子(2+2+2)の交互出現を強調する個性あふれるもの。ほとんどの場面において独奏ヴァイオリンは管弦楽をリードし、華麗に音楽を盛り上げていく。

作曲/1903年 改訂1905年 初演/改訂版1905年10月19日、リヒャルト・シュトラウス指揮、カレル・ハリール独奏、ベルリン 編成/フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部、ヴァイオリン独奏  
使用楽譜/カルマス

ジャン・シベリウス(1865-1957)

## 交響曲 第1番 ホ短調 作品39

シベリウスは、最初期の声楽を含む標題音楽的な「クレルヴォ交響曲」を除くと生涯で7つの交響曲を作曲した。そのうち最初の2曲が伝統的な四楽章制の交響曲。この2曲においてはシベリウスの形式的独自性は希薄だが、むしろそれ故に親しみやすい。

第1楽章は序奏付きのソナタ形式。ティンパニのトレモロの上のゆっくりしたテンポの独奏クラリネットによる旋律で序奏がはじまる。アレグロの主部は弦楽器による保続音を強調した第1主題が北風の厳しい冬を感じさせる。盛り上がりをはさんでフルートによるいくぶん軽妙な感じの第2主題が現れる。これら主題旋律はいずれも抒情

的であるものの、それらが時に劇的な表情で展開するというアンパ  
ランスがむしろ魅力である。

第2楽章は三部形式、その速度はアンダンテ。牧歌風の主題が  
ヴァイオリンとチェロのオクターブユニゾンで登場し、その後テンポ  
を速めて何度か繰り返され、盛り上がりを見せて劇的な表情に変わ  
る。中間部で4つのホルンによって静かに奏でられる主題は保続音  
を強調したもので、第1楽章第1主題との関連を感じさせる。

第3楽章はスケルツォ。荒々しい感じの主題はティンパニに導かれ、  
弦楽器、木管、ホルンの掛け合いによって提示される。中間部で  
はホルンが主体となり、伸びやかな牧歌を歌う。スケルツォが帰帰  
すると冒頭部分とは楽器の組み合わせや手順を変えて発展する。

第4楽章は序奏付きのソナタ形式。序奏では曲冒頭のクラリネット  
による序奏主題が弦楽器のユニゾンで演奏される。まさに厳しい  
北欧の冬を象徴するような音楽。アレグロ・モルトの主部では木管  
楽器が不安をあおるような第1主題を提示する。次にテンポを落と  
して歌謡的な第2主題が弦楽器群のユニゾンで切々と歌われる。や  
がてアレグロ・モルトに戻って第1主題を中心とする展開部に入る。  
再現部はクライマックスを築くために拡大され、第2主題の存在感が  
際立ってくる。最後は意外にもピアノシモで終わる。

作曲/1899年 初演/1899年4月26日、作曲家指揮、ヘルシンキにおける自作コンサート  
編成/フルート2(ピッコロ2持換)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、  
トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、バス・ドラム、シンバル、トライアングル、ハーブ、弦5部  
使用楽譜/ブライトコプフ&ヘルテル

※編成は使用楽譜に基づくもので演奏の都合上、異なる場合がございます。ご了承ください。

## ストレスケアユニット クローバー

全室個室(バス・トイレ付)の入院施設です  
ゆとりあるフロアをご用意しました

本間病院

検索



癒しとおもてなしの



睡眠・ストレス・認知症に関する相談

精神科・心療内科・内科  
循環器内科・リウマチ科  
放射線科・リハビリテーション科

福岡県小郡市三沢526番地

(財)日本医療機能評価機構認定病院

医療法人 寿栄会

**本間病院**

☎ 73-0111  
(0942)

浜の町で音楽会  
「ゴルトベルク変奏曲」  
- 北口大輔編曲による無伴奏チェロ版 -  
日本センチュリー交響楽団首席 / 元九州交響楽団首席チェロ奏者

チェロ 北口 大輔

2021 3/29・30  
MON TUE

要予約/3,000円  
定員/各公演20人限定  
開場/18:30 開演/19:00  
場所/弦楽器工房まつもと/スタジオ201号室  
〒810-0073福岡市中央区舞鶴3-3-17  
インペリアル舞鶴2F(201) 浜の町公園の目の前です

お問合わせは  
弦楽器工房まつもと  
092-406-4092

HAMANOMACHI de ONGAKUKAI